



平成30年3月期 第3四半期決算短信〔IFRS〕(連結)

平成30年2月2日

上場会社名 **小野薬品工業株式会社** 上場取引所 東
 コード番号 4528 URL <http://www.ono.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 相良 暁
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員広報部長 (氏名) 谷 幸雄 (TEL) (06) 6263-5670
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満四捨五入)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績 (平成29年4月1日～平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		四半期利益		親会社の所有者に 帰属する四半期利益		四半期包括利益 合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	200,570	6.2	52,191	△2.1	55,333	△1.5	41,539	△2.4	41,439	△2.4	65,744	23.5
29年3月期第3四半期	188,845	68.0	53,303	138.8	56,193	123.8	42,581	120.8	42,472	121.4	53,225	95.6
	基本的1株当たり 四半期利益		希薄化後1株当たり 四半期利益									
	円 銭		円 銭									
30年3月期第3四半期	79.74		79.74									
29年3月期第3四半期	80.13		80.13									

(2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率
	百万円	百万円	百万円	%
30年3月期第3四半期	596,208	527,750	522,528	87.6
29年3月期	617,461	524,211	519,110	84.1

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	20.00	—	20.00	40.00
30年3月期	—	25.00	—		
30年3月期(予想)				20.00	45.00

(注) 1 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2 平成30年3月期第2四半期末配当金の内訳: 普通配当20円、創業300周年記念配当5円

3. 平成30年3月期の連結業績予想 (平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		当期利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	260,000	6.2	54,500	△24.6	57,500	△22.9	43,200	△22.9	43,000	△22.9	82.74

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

① IFRSにより要求される会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

30年3月期3Q	543,341,400株	29年3月期	589,237,500株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

30年3月期3Q	29,219,559株	29年3月期	59,218,371株
----------	-------------	--------	-------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

30年3月期3Q	519,671,572株	29年3月期3Q	530,020,386株
----------	--------------	----------	--------------

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

●本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により、大きく異なる可能性があります。なお、上記業績予想に関する事項は、添付資料4ページ「(4) 今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当第3四半期の経営成績の概況	2
(2) 当第3四半期の財政状態の概況	3
(3) 当第3四半期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	4
3. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 要約四半期連結財政状態計算書	5
(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書	7
(3) 要約四半期連結持分変動計算書	9
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(表示方法の変更)	11
(追加情報)	11
(重要な後発事象)	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
4. 補足情報	12
(1) 主な製品の売上収益と予想	12
(2) 売上収益の内訳	12
(3) 地域別の売上収益に関する情報	12
(4) 開発品（がん領域）の主な進捗状況	13
(5) 開発品（がん領域以外）の主な進捗状況	19

1. 経営成績等の概況

(1) 当第3四半期の経営成績の概況

当第3四半期（2017年4月～12月）における業績につきましては、以下のとおりとなりました。

(単位：百万円)

	2017年3月期 第3四半期連結累計期間	2018年3月期 第3四半期連結累計期間	対前年同期 増減額	対前年同期 増減率
売上収益	188,845	200,570	11,725	6.2%
営業利益	53,303	52,191	△1,112	△2.1%
税引前四半期利益	56,193	55,333	△860	△1.5%
四半期利益 (親会社の所有者帰属)	42,472	41,439	△1,033	△2.4%

[売上収益]

売上収益は、前年同期比117億円（6.2%）増加の2,006億円となりました。

- ・抗悪性腫瘍剤「オブジーボ点滴静注」は、前年度に効能追加された腎細胞がん、頭頸部がん、2017年9月に効能追加された胃がん等のがん腫への使用が拡大しているものの、2017年2月より薬価が50%引き下げられた影響などにより、前年同期比136億円（16.5%）減少の690億円となりました。
- ・その他の主要新製品では、2型糖尿病治療剤「グラクティブ錠」は223億円（前年同期比1.6%減）、関節リウマチ治療剤「オレンシア皮下注」は109億円（同25.6%増）、骨粗鬆症治療剤「リカルボン錠」は85億円（同1.9%減）、2型糖尿病治療剤「フォシーガ錠」は85億円（同47.0%増）、抗悪性腫瘍剤投与に伴う悪心・嘔吐治療剤「イメンドカプセル」、「プロイメンド点滴静注用」は合わせて78億円（同2.4%増）、アルツハイマー型認知症治療剤「リバスタッチパッチ」は70億円（同3.2%増）、多発性骨髄腫治療剤「カイプロリス点滴静注用」は45億円（同325.7%増）、血液透析下の二次性副甲状腺機能亢進症治療剤「パーサビブ静注透析用」は25億円（2017年2月新発売）となりました。
- ・長期収載品は、競合品や後発品使用促進策の影響を受け、末梢循環障害改善剤「オパルモン錠」は116億円（前年同期比13.0%減）、気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「オノンカプセル」は39億円（同17.5%減）、慢性膵炎・術後逆流性食道炎治療剤「フオイパン錠」は24億円（同19.3%減）となりました。
- ・ロイヤルティ・その他の営業収益は、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社からの「オブジーボ点滴静注」のロイヤルティ収入が増加したことなどにより、前年同期比189億円（86.7%）増加の406億円となりました。

[営業利益]

営業利益は、前年同期比11億円（2.1%）減少の522億円となりました。

- ・売上原価は、前年同期とほぼ同額の502億円となりました。
- ・研究開発費は、「オブジーボ点滴静注」関連費用が増加したことにより、前年同期比94億円（24.1%）増加の484億円となりました。
- ・販売費及び一般管理費（研究開発費を除く）は、「パーサビブ静注透析用」等の新製品発売に係る営業経費および「オブジーボ点滴静注」の営業経費や安全性情報管理に関わる経費が増加したことにより、前年同期比43億円（9.6%）増加の495億円となりました。

[四半期利益]（親会社の所有者帰属）

親会社の所有者に帰属する四半期利益は、税引前四半期利益の減少に伴い、前年同期比10億円（2.4%）減少の414億円となりました。

(2) 当第3四半期の財政状態の概況

(単位：百万円)

	2017年3月期 連結会計年度末	2018年3月期 第3四半期連結会計期間末	対前連結会計年度末 増減額
資産合計	617,461	596,208	△21,253
親会社の所有者に帰属する持分	519,110	522,528	3,418
親会社所有者帰属持分比率	84.1%	87.6%	
1株当たり親会社所有者帰属持分	979.42円	1,016.35円	

資産合計は、前期末に比べ213億円減少の5,962億円となりました。

流動資産は、売上債権及びその他の債権の増加などがあったものの、現金及び現金同等物の減少などから739億円減少の1,971億円となりました。

非流動資産は、その他の金融資産や投資有価証券の増加などから527億円増加の3,991億円となりました。

負債は、未払法人所得税やその他の流動負債の減少などから248億円減少の685億円となりました。

親会社の所有者に帰属する持分は、利益剰余金の減少などがあったものの、その他の資本の構成要素の増加などから34億円増加の5,225億円となりました。

(3) 当第3四半期のキャッシュ・フローの概況

(単位：百万円)

	2017年3月期 第3四半期連結累計期間	2018年3月期 第3四半期連結累計期間	対前年同期 増減額
現金及び現金同等物の期首残高	110,485	146,323	
営業活動によるキャッシュ・フロー	37,159	△8,537	△45,695
投資活動によるキャッシュ・フロー	△19,427	△36,625	△17,198
財務活動によるキャッシュ・フロー	△19,699	△61,595	△41,896
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△1,968	△106,757	
現金及び現金同等物に係る為替変動による影響額	△14	142	
現金及び現金同等物の四半期末残高	108,503	39,708	

当第3四半期の現金及び現金同等物の増減額は、1,068億円の減少となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前四半期利益553億円などがあった一方で、法人所得税等の支払額364億円、売上債権及びその他の債権の増加額196億円、消費税等の納付などによるその他の支出107億円などがあった結果、85億円の支出となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、投資の売却及び償還による収入168億円があった一方で、定期預金の預入による支出306億円、有形固定資産の取得による支出120億円、無形資産の取得による支出109億円などがあった結果、366億円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、自己株式の取得による支出388億円や配当金の支払額225億円などがあった結果、616億円の支出となりました。

(4) 今後の見通し

2017年11月6日に開示しました2018年3月期通期の連結業績予想を、下記のとおり修正します。

2018年3月期通期連結業績予想数値の修正

(2017年4月1日～2018年3月31日)

(単位：百万円)

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	親会社の所有者に帰属する当期利益	基本的1株当たり当期利益
前回発表予想(A)	254,000	50,000	53,000	39,700	39,500	75.66円
今回修正予想(B)	260,000	54,500	57,500	43,200	43,000	82.74円
増減額(B-A)	6,000	4,500	4,500	3,500	3,500	
増減率(%)	2.4	9.0	8.5	8.8	8.9	
(ご参考)前期実績 (2017年3月期)	244,797	72,284	74,540	56,036	55,793	105.27円

売上収益は、主力製品の抗悪性腫瘍剤「オプジーボ点滴静注」について、前年度に効能追加された腎細胞がん、頭頸部がん、2017年9月に効能追加された胃がん等のがん腫への使用が拡大したことにより、前回発表予想を上回る見込みであることに加え、第3四半期連結会計期間にブリストル・マイヤーズ スクイブ社へのONO-4578導出に伴う契約一時金の一部を売上計上したことから、前回発表予想の2,540億円から2,600億円（前回発表予想比60億円増）に修正しました。

費用面では、売上増加に伴い売上原価が増加しますが、研究開発費および販売費及び一般管理費は前回発表予想から変更はありません。

以上の結果、当期の営業利益は545億円（同45億円増）、税引前利益は575億円（同45億円増）、当期利益は432億円（同35億円増）、親会社の所有者に帰属する当期利益は430億円（同35億円増）を予想しています。

(注) 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は、今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、国際的なスタンダードに基づく財務情報の開示により比較可能性を向上させ、株主、投資家や取引先など様々なステークホルダーの皆さまの利便性をはかることを目的として、2014年3月期から国際会計基準(IFRS)を適用しております。

3. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約四半期連結財政状態計算書

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (2017年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2017年12月31日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	146,323	39,708
売上債権及びその他の債権	73,255	92,936
有価証券	17,560	12,624
その他の金融資産	819	10,809
棚卸資産	25,334	30,448
その他の流動資産	7,742	10,595
流動資産合計	271,033	197,121
非流動資産		
有形固定資産	83,659	93,156
無形資産	45,237	55,132
投資有価証券	176,573	198,577
持分法で会計処理されている投資	114	127
その他の金融資産	26,836	46,553
繰延税金資産	10,739	1,074
退職給付に係る資産	—	604
その他の非流動資産	3,271	3,863
非流動資産合計	346,428	399,086
資産合計	617,461	596,208

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2017年12月31日)
負債及び資本		
流動負債		
仕入債務及びその他の債務	30,905	30,631
借入金	423	349
その他の金融負債	5,814	7,781
未払法人所得税	24,777	2,743
引当金	6,086	10,106
その他の流動負債	14,928	6,982
流動負債合計	82,933	58,592
非流動負債		
借入金	542	363
その他の金融負債	11	11
退職給付に係る負債	2,805	2,720
引当金	30	30
繰延税金負債	881	913
長期前受収益	5,276	5,039
その他の非流動負債	772	790
非流動負債合計	10,316	9,865
負債合計	93,250	68,457
資本		
資本金	17,358	17,358
資本剰余金	17,144	17,168
自己株式	△59,382	△38,147
その他の資本の構成要素	51,752	73,855
利益剰余金	492,237	452,294
親会社の所有者に帰属する持分	519,110	522,528
非支配持分	5,101	5,222
資本合計	524,211	527,750
負債及び資本合計	617,461	596,208

(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書

要約四半期連結損益計算書

	(単位：百万円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)
売上収益	188,845	200,570
売上原価	△50,268	△50,235
売上総利益	138,577	150,336
販売費及び一般管理費	△45,159	△49,477
研究開発費	△38,980	△48,366
その他の収益	261	390
その他の費用	△1,396	△691
営業利益	53,303	52,191
金融収益	2,937	3,158
金融費用	△75	△26
持分法による投資損益	27	9
税引前四半期利益	56,193	55,333
法人所得税	△13,611	△13,793
四半期利益	42,581	41,539
四半期利益の帰属：		
親会社の所有者	42,472	41,439
非支配持分	109	100
四半期利益	42,581	41,539
1株当たり四半期利益：		
基本的1株当たり四半期利益(円)	80.13	79.74
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	80.13	79.74

要約四半期連結包括利益計算書

	(単位：百万円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)
四半期利益	42,581	41,539
その他の包括利益：		
純損益に振り替えられることのない項目：		
その他の包括利益を通じて測定する 金融資産の公正価値の純変動	10,246	23,363
確定給付制度の再測定	373	675
持分法適用会社のその他の包括利益を 通じて測定する金融資産の公正価値の 純変動に対する持分	1	3
純損益に振り替えられることのない 項目合計	10,620	24,041
純損益にその後に振り替えられる 可能性のある項目：		
在外営業活動体の換算差額	23	158
キャッシュ・フロー・ヘッジの 公正価値の純変動	—	6
純損益にその後に振り替えられる 可能性のある項目合計	23	164
その他の包括利益合計	10,643	24,205
四半期包括利益合計	53,225	65,744
四半期包括利益合計の帰属：		
親会社の所有者	53,112	65,620
非支配持分	113	124
四半期包括利益合計	53,225	65,744

(3) 要約四半期連結持分変動計算書

前第3四半期連結累計期間(自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)

(単位:百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分							資本合計
	資本金	資本 剰余金	自己株式	その他の 資本の 構成要素	利益 剰余金	親会社の 所有者に 帰属する 持分	非支配 持分	
2016年4月1日残高	17,358	17,103	△59,358	43,307	452,983	471,393	4,862	476,255
四半期利益					42,472	42,472	109	42,581
その他の包括利益				10,640		10,640	4	10,643
四半期包括利益合計	—	—	—	10,640	42,472	53,112	113	53,225
自己株式の取得			△23			△23		△23
剰余金の配当					△20,142	△20,142	△3	△20,145
株式報酬取引		30				30		30
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替				△2,809	2,809	—		—
所有者との取引額等合計	—	30	△23	△2,809	△17,333	△20,135	△3	△20,138
2016年12月31日残高	17,358	17,133	△59,381	51,138	478,122	504,370	4,972	509,342

当第3四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)

(単位:百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分							資本合計
	資本金	資本 剰余金	自己株式	その他の 資本の 構成要素	利益 剰余金	親会社の 所有者に 帰属する 持分	非支配 持分	
2017年4月1日残高	17,358	17,144	△59,382	51,752	492,237	519,110	5,101	524,211
四半期利益					41,439	41,439	100	41,539
その他の包括利益				24,181		24,181	24	24,205
四半期包括利益合計	—	—	—	24,181	41,439	65,620	124	65,744
自己株式の取得			△38,772			△38,772		△38,772
自己株式の消却			60,007		△60,007	—		—
剰余金の配当					△23,453	△23,453	△3	△23,457
株式報酬取引		24				24		24
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替				△2,078	2,078	—		—
所有者との取引額等合計	—	24	21,235	△2,078	△81,382	△62,202	△3	△62,205
2017年12月31日残高	17,358	17,168	△38,147	73,855	452,294	522,528	5,222	527,750

(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	56,193	55,333
減価償却費及び償却費	5,651	6,681
減損損失	736	—
受取利息及び受取配当金	△2,836	△2,885
支払利息	10	10
棚卸資産の増減額(△は増加)	△1,278	△4,986
売上債権及びその他の債権の増減額(△は増加)	△25,959	△19,581
仕入債務及びその他の債務の増減額(△は減少)	6,432	△2,965
引当金の増減額(△は減少)	53	3,985
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	304	282
長期前受収益の増減額(△は減少)	△319	△237
その他	6,735	△10,683
小計	45,723	24,952
利息の受取額	114	66
配当金の受取額	2,732	2,817
利息の支払額	△10	△10
法人所得税等の支払額	△11,401	△36,363
営業活動によるキャッシュ・フロー	37,159	△8,537
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△12,608	△11,989
無形資産の取得による支出	△6,719	△10,862
投資の取得による支出	△2,437	△40
投資の売却及び償還による収入	22,341	16,761
定期預金の預入による支出	△20,600	△30,600
その他	596	105
投資活動によるキャッシュ・フロー	△19,427	△36,625
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△19,347	△22,478
非支配持分への配当金の支払額	△3	△3
長期借入金の返済による支出	△290	△315
短期借入金の純増減額	△37	△24
自己株式の取得による支出	△22	△38,775
財務活動によるキャッシュ・フロー	△19,699	△61,595
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,968	△106,757
現金及び現金同等物の期首残高	110,485	146,323
現金及び現金同等物に係る 為替変動による影響額	△14	142
現金及び現金同等物の四半期末残高	108,503	39,708

(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(表示方法の変更)

(要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書)

前第3四半期連結累計期間において、営業活動によるキャッシュ・フローの「その他」に含めて表示しておりました「引当金の増減額」は、金額的重要性が増したため、第1四半期連結累計期間より独立掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間の要約四半期連結財務諸表の組み替えを行っております。

この結果、前第3四半期連結累計期間の要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書において営業活動によるキャッシュ・フローに表示していた「その他」6,788百万円は、「引当金の増減額」53百万円、「その他」6,735百万円として組み替えております。

(追加情報)

(資本及びその他の資本項目)

自己株式の取得及び消却

当社は、2017年6月13日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき自己株式取得に係る事項について決議するとともに、会社法第178条の規定に基づく自己株式の消却を行うことを決議しました。

①自己株式の取得を行う理由

資本効率の向上を図るとともに、総合的な株主還元策の一環として実施するものです。

②取得に係る事項の内容

- (1) 取得する株式の種類 : 当社普通株式
- (2) 取得する株式の総数 : 2,000万株 (上限)
(発行済株式総数 (自己株式を除く) に対する割合 3.77%)
- (3) 株式の取得価額の総額 : 500億円 (上限)
- (4) 取得する期間 : 2017年6月14日 ~ 2017年9月29日
- (5) 取得の方法 : 東京証券取引所における市場買付

③取得した自己株式

- (1) 取得した株式の種類 : 当社普通株式
- (2) 取得した株式の総数 : 15,896,100株
- (3) 株式の取得価額の総額 : 38,766,145,700円
- (4) 取得した期間 : 2017年6月14日 ~ 2017年9月29日
- (5) 取得した方法 : 東京証券取引所における市場買付

④自己株式の消却

- (1) 消却した株式の種類 : 当社普通株式
- (2) 消却した株式の総数 : 45,896,100株
(消却前の発行済株式総数に対する割合 7.79%)
- (3) 消却実施日 : 2017年10月31日

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

4. 補足情報

(1) 主な製品の売上収益と予想

(単位：億円)

製品名	2018年3月期 第3四半期累計期間						2018年3月期 通期予想					
	累 計 実 績				前年同期比		前回予想	前回予想 からの 修正額	修正 予想	前期比		
	4～6月	7～9月	10～12月		増減額	増減率				増減額	増減率	
オブジーボ点滴静注	198	208	284	690	△136	△16.5%	840	50	890	△149	△14.3%	
グラクティブ錠	70	67	86	223	△4	△1.6%	295		295	1	0.4%	
オレンシア皮下注	33	35	41	109	22	25.6%	145		145	29	25.2%	
オパルモン錠	38	37	41	116	△17	△13.0%	140		140	△30	△17.8%	
リカルボン錠	27	27	31	85	△2	△1.9%	110		110	△3	△2.6%	
フォシーガ錠	26	26	32	85	27	47.0%	110		110	32	40.9%	
リバスタッチパッチ	22	22	26	70	2	3.2%	100		100	11	12.9%	
イメンド/プロイメンド	25	25	28	78	2	2.4%	100		100	1	1.2%	
カイプロリス点滴静注用	12	15	18	45	34	325.7%	60		60	40	206.1%	
オノアクト点滴静注用	15	12	19	46	2	3.5%	60		60	3	4.8%	
オノンカプセル	13	11	15	39	△8	△17.5%	55		55	△13	△19.0%	
ステーブラ錠	11	10	12	33	△4	△11.1%	45		45	△3	△5.7%	
パーサビブ静注透析用	6	8	11	25	2017年2月新発売		30		30	28	1439.8%	
オノンドライシロップ	8	7	11	26	△5	△17.7%	30		30	△11	△26.9%	
フオイパン錠	8	8	8	24	△6	△19.3%	30		30	△8	△21.7%	
キネダック錠	6	6	6	18	△5	△23.1%	25		25	△4	△13.2%	

(注) 仕切価格(出荷価格)ベースで売上を開示しております。

(2) 売上収益の内訳

(単位：億円)

	2017年3月期 第3四半期連結累計期間	2018年3月期 第3四半期連結累計期間
製品商品	1,671	1,599
ロイヤルティ・その他	218	406
合計	1,888	2,006

(注) 「ロイヤルティ・その他」の中には、「オブジーボ点滴静注」のロイヤルティ収入が、前第3四半期連結累計期間には189億円、当第3四半期連結累計期間には284億円、それぞれ含まれております。

(3) 地域別の売上収益に関する情報

(単位：億円)

	2017年3月期 第3四半期連結累計期間	2018年3月期 第3四半期連結累計期間
日本	1,671	1,591
米州	194	381
アジア	21	32
欧州	3	1
合計	1,888	2,006

(注) 売上収益は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しております。

(4) 開発品（がん領域）の主な進捗状況

平成30年1月30日現在

1. 日本の開発品状況

<申請中開発品>

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	自社 [*] ／導入
オブジーボ点滴静注	効能追加	悪性胸膜中皮腫 ^{*1}	注射	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ヤーボイ点滴静注液	効能追加	腎細胞がん ^{*2}	注射	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)

平成30年3月期第2四半期決算発表からの変更点

※1：「オブジーボ」は、切除不能な進行又は転移性の悪性胸膜中皮腫を効能・効果とした製造販売承認事項一部変更承認申請を行いました。

※2：「ヤーボイ」は、「オブジーボ」との併用による根治切除不能又は転移性の腎細胞がんを効能・効果とした製造販売承認事項一部変更承認申請を行いました。

***）：共同研究により創出された化合物を含む**

なお、抗がん剤において、同じ予定効能（がん腫）の場合は、最も進んでいるフェーズ（臨床ステージ）を記載しております。

<臨床試験中開発品>

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	フェーズ	自社 [*] ／導入
オブジーボ点滴静注	効能追加	食道がん	注射	Ⅲ	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	食道胃接合部がん及び食道がん	注射	Ⅲ	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	小細胞肺がん	注射	Ⅲ	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	肝細胞がん	注射	Ⅲ	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	膠芽腫	注射	Ⅲ	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	尿路上皮がん	注射	Ⅲ	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	卵巣がん	注射	Ⅲ	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	フェーズ	自社 [*] / 導入
ヤーボイ点滴静注液 ^{**3}	効能追加	非小細胞肺癌	注射	Ⅲ	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	小細胞肺癌	注射	Ⅲ	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	頭頸部がん	注射	Ⅲ	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	胃がん	注射	Ⅲ	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	悪性胸膜中皮腫	注射	Ⅲ	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	食道がん	注射	Ⅲ	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	尿路上皮がん	注射	Ⅲ	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
カイプロリス点滴静注用	用法・用量 変更	多発性骨髄腫 ／プロテアソーム阻害作用	注射	Ⅲ	導入 (アムジェン社)
ONO-7643 /アナモレリン	新有効成分	がん悪液質／グレリン様作用	錠	Ⅲ	導入 (ヘルシン社)
ONO-7702 /Encorafenib	新有効成分	悪性黒色腫 ／BRAF阻害作用	カプセル	Ⅲ	導入 (アレイ社)
ONO-7703 /Binimetinib	新有効成分	悪性黒色腫 ／MEK阻害作用	錠	Ⅲ	導入 (アレイ社)
ONO-7701 ^{**4} (BMS-986205)	新有効成分	悪性黒色腫／IDO1阻害作用	カプセル	Ⅲ	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
オブジーボ点滴静注	効能追加	固形がん(子宮頸がん、子宮体がん 及び軟部肉腫)	注射	Ⅱ	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	中枢神経系原発リンパ腫／精巣原発 リンパ腫	注射	Ⅱ	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	多発性骨髄腫	注射	Ⅱ	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
オブジーボ点滴静注	効能追加	ウイルス陽性・陰性固形がん	注射	I / Ⅱ	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ヤーボイ点滴静注液 ^{**3}	効能追加	ウイルス陽性・陰性固形がん	注射	I / Ⅱ	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ONO-5371 /メチロシン	新有効成分	褐色細胞腫 ／チロシン水酸化酵素阻害作用	カプセル	I / Ⅱ	導入 (バリアント社)
ONO-4686 (BMS-986207)	新有効成分	固形がん／抗TIGIT抗体	注射	I / Ⅱ	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ONO-4059 /Tirabrutinib	新有効成分	中枢神経系原発リンパ腫 ／Bruton's tyrosine kinase (Btk) 阻害作用	錠	I / Ⅱ	自社
ONO-4482 ^{**5} (BMS-986016) /Relatlimab	新有効成分	悪性黒色腫／抗LAG-3抗体	注射	I / Ⅱ	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
オブジーボ点滴静注	効能追加	胆道がん	注射	I	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ONO-4481 (BMS-663513) /Urelumab	新有効成分	固形がん／抗CD137抗体	注射	I	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	フェーズ	自社 [*] ／導入
ONO-4687 (BMS-986227) /Cabiralizumab	新有効成分	固形及び血液がん／抗CSF-1R抗体	注射	I	導入 (プリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ONO-4483 (BMS-986015)/Lirilumab	新有効成分	固形がん／抗KIR抗体	注射	I	導入 (プリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ONO-4578	新有効成分	固形がん ／プロスタグランディン受容体 (E P 4) 拮抗作用	錠	I	自社

平成30年3月期第2四半期決算発表からの変更点

※3：「オプジーボ」との併用試験

※4：ID01阻害薬「ONO-7701」は、オプジーボとの併用による悪性黒色腫を対象としたフェーズⅢ試験を開始しました。

※5：抗LAG-3抗体「ONO-4482」は、オプジーボとの併用による悪性黒色腫を対象としたフェーズⅠ/Ⅱ試験を開始しました。

＊）：共同研究により創出された化合物を含む

なお、抗がん剤において、同じ予定効能（がん腫）の場合は、最も進んでいるフェーズ（臨床ステージ）を記載しております。

2. 韓国、台湾の開発品状況

<承認取得開発品>

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	地域	自社 [*] ／導入
オプジーボ点滴静注	効能追加	胃がん ^{※6}	注射	台湾	自社 (プリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)

平成30年3月期第2四半期決算発表からの変更点

※6：「オプジーボ」は、2レジメン以上の化学療法後の進行または再発の胃がんまたは食道胃接合部がんを効能・効果とした輸入販売承認事項一部変更承認を取得しました。

＊）：共同研究により創出された化合物を含む

なお、抗がん剤において、同じ予定効能（がん腫）の場合は、最も進んでいるフェーズ（臨床ステージ）を記載しております。

<臨床試験中開発品>

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	フェーズ	地域	自社*) /導入
オブジーボ点滴静注	効能追加	胃がん	注射	Ⅲ	韓国	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	食道がん	注射	Ⅲ	韓国、台湾	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	食道胃接合部がん及 び食道がん	注射	Ⅲ	韓国、台湾	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	小細胞肺がん	注射	Ⅲ	韓国、台湾	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	肝細胞がん	注射	Ⅲ	韓国、台湾	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ヤーボイ点滴静注液 ^{※3}	効能追加	腎細胞がん	注射	Ⅲ	韓国、台湾	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	非小細胞肺がん	注射	Ⅲ	韓国、台湾	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	小細胞肺がん	注射	Ⅲ	韓国、台湾	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	頭頸部がん	注射	Ⅲ	韓国、台湾	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	胃がん	注射	Ⅲ	韓国、台湾	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	食道がん	注射	Ⅲ	韓国、台湾	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	尿路上皮がん	注射	Ⅲ	韓国、台湾	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ONO-7702 /Encorafenib	新有効成分	大腸がん ／BRAF阻害作用	カプセル	Ⅲ	韓国	導入 (アレイ社)
	新有効成分	悪性黒色腫 ／BRAF阻害作用	カプセル	Ⅲ	韓国	導入 (アレイ社)
ONO-7703 /Binimetinib	新有効成分	大腸がん ／MEK阻害作用	錠	Ⅲ	韓国	導入 (アレイ社)
	新有効成分	悪性黒色腫 ／MEK阻害作用	錠	Ⅲ	韓国	導入 (アレイ社)
オブジーボ点滴静注	効能追加	ウイルス陽性・陰性 固形がん	注射	I / II	韓国、台湾	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ヤーボイ点滴静注液 ^{※3}	効能追加	ウイルス陽性・陰性 固形がん	注射	I / II	韓国、台湾	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)

平成30年3月期第2四半期決算発表からの変更点

※3：「オブジーボ」との併用試験

*)：共同研究により創出された化合物を含む

なお、抗がん剤において、同じ予定効能（がん腫）の場合は、最も進んでいるフェーズ（臨床ステージ）を記載しております。

3. 欧米の開発品状況

<臨床試験中開発品>

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	フェーズ	地域	自社 [*] /導入
オブジーボ点滴静注	効能追加	膠芽腫	注射	Ⅲ	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	小細胞肺癌	注射	Ⅲ	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	肝細胞がん	注射	Ⅲ	欧州	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	食道がん	注射	Ⅲ	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	多発性骨髄腫	注射	Ⅲ	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	食道胃接合部がん及び食道がん	注射	Ⅲ	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	胃がん	注射	Ⅲ	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	悪性胸膜中皮腫	注射	Ⅲ	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	注射	Ⅱ	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	濾胞性リンパ腫	注射	Ⅱ	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	中枢神経系原発リンパ腫／精巣原発リンパ腫	注射	Ⅱ	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	大腸がん	注射	Ⅱ	欧州	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	前立腺がん ^{※7}	注射	Ⅱ	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	フェーズ	地域	自社 [*] ／導入
ONO-4059 /Tirabrutinib	新有効成分	B細胞リンパ腫 ／Bruton's tyrosine kinase (B t k) 阻害作用	錠	II	欧州	自社 (ギリアド・サイエンシズ社 に導入)
ONO-7579	新有効成分	固形がん／Tropomyosin receptor kinase (T r k) 阻 害作用	錠	I / II	欧米	自社
オプジーボ点滴静注	効能追加	固形がん（トリプルネガティ ブ乳がん、胃がん、膵がん、 小細胞肺がん、尿路上皮がん、 卵巣がん）	注射	I / II	欧米	自社 (プリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	ウイルス陽性・陰性固形がん	注射	I / II	欧米	自社 (プリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	血液がん（T細胞リンパ腫、 多発性骨髄腫、慢性白血病、 他）	注射	I	欧米	自社 (プリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	慢性骨髄性白血病	注射	I	欧米	自社 (プリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ONO-4059 /Tirabrutinib	新有効成分	B細胞リンパ腫 ／Bruton's tyrosine kinase (B t k) 阻害作用	錠	I	米国	自社 (ギリアド・サイエンシズ社 に導入)
ONO-7475	新有効成分	急性白血病／Ax1/Mer阻害作用	錠	I	米国	自社

平成30年3月期第2四半期決算発表からの変更点

※7：「オプジーボ」は、前立腺がんを対象としたフェーズII試験を開始しました。

＊）：共同研究により創出された化合物を含む

なお、抗がん剤において、同じ予定効能（がん腫）の場合は、最も進んでいるフェーズ（臨床ステージ）を記載しております。

(5) 開発品（がん領域以外）の主な進捗状況

平成30年1月30日現在

1. 国内開発品状況

<申請中開発品>

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	自社 [*] ／導入
オレンシア点滴静注用	効能追加	若年性特発性関節炎 ／T細胞活性化抑制作用	注射	導入 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社)

*): 共同研究により創出された化合物を含む

<臨床試験中開発品>

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	フェーズ	自社 [*] ／導入
オレンシア点滴静注用	効能追加	ループス腎炎 ／T細胞活性化抑制作用	注射	Ⅲ	導入 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社)
オレンシア皮下注	効能追加	未治療の関節リウマチ ／T細胞活性化抑制作用	注射	Ⅲ	導入 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社)
	効能追加	一次性シェーグレン症候群 ／T細胞活性化抑制作用	注射	Ⅲ	導入 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社)
	効能追加	多発性筋炎・皮膚筋炎 ／T細胞活性化抑制作用	注射	Ⅲ	導入 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社)
ONO-1162 /イバブラジン	新有効成分	慢性心不全／I f チャンネル阻害作用	錠	Ⅲ	導入 (セルヴィエ社)
ONO-5704 /SI-613	新有効成分	変形性関節症 ／NSAID結合ヒアルロン酸	注射	Ⅲ	導入 (生化学工業株式会社)
オノアクト点滴静注用 50mg/150mg (ONO-1101)	小児での効能追加	心機能低下例における頻脈性不整脈 ／β ₁ 遮断作用（短時間作用型）	注射	Ⅱ/Ⅲ	自社
	効能追加	心室性不整脈 ／β ₁ 遮断作用（短時間作用型）	注射	Ⅱ/Ⅲ	自社
	効能追加	敗血症に伴う頻脈性不整脈 ^{※8} ／β ₁ 遮断作用（短時間作用型）	注射	Ⅱ/Ⅲ	自社
ONO-2370 /オピカボン	新有効成分	パーキンソン病 ／長時間作用型COMT阻害作用	錠	Ⅱ	導入 (ビアル社)
ONO-5704 /SI-613	新有効成分	腱・靭帯付着部症 ／NSAID結合ヒアルロン酸	注射	Ⅱ	導入 (生化学工業株式会社)
オプジーボ点滴静注	効能追加	敗血症	注射	Ⅰ/Ⅱ	自社 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ONO-4059 /Tirabrutinib	新有効成分	自己免疫疾患 ^{※9} /Bruton's tyrosine kinase (Btk) 阻害作用	錠	Ⅰ	自社

平成30年3月期第2四半期決算発表からの変更点

※8: 「オノアクト点滴静注用」は、敗血症に伴う頻脈性不整脈を対象としたフェーズⅡ/Ⅲ試験を開始しました。

※9: Btk阻害薬「ONO-4059」は、健康成人を対象としたフェーズⅠ試験を開始しました。

※膀胱平滑筋弛緩作用を有する「ONO-8577」は、過活動膀胱を対象としたフェーズⅡ試験を実施していましたが、期待していた有効性が確認できなかったことから開発を中止しました。

*): 共同研究により創出された化合物を含む

2. 海外の開発品状況

<臨床試験中開発品>

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	フェーズ	地域	自社 ^{*)} ／導入
ONO-4059 /Tirabrutinib	新有効成分	シエーグレン症候群 ／ Bruton's tyrosine kinase (B t k) 阻害作用	錠	II	欧米	自社 (ギリアド・サイエンシズ社 に導入)
オブジーボ点滴静注	効能追加	C型肝炎	注射	I	欧米	自社 (プリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	敗血症	注射	I	米国	自社 (プリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ONO-8055	新有効成分	低活動膀胱／プロスタグラン دين受容体 (EP2／EP 3) 作動作用	錠	I	欧州	自社

平成30年3月期第2四半期決算発表からの変更点

※Trk阻害薬「ONO-4474」は、変形性関節症を対象としたフェーズII試験を実施していましたが、戦略上の理由により開発を中止しました。

*) : 共同研究により創出された化合物を含む